

企業は発熱者増に備えを

「企業で衛生環境の助言や労働者の健康指導に当たる産業医の立場から、新型コロナウイルス感染症の「第3波」が懸念される冬場に向けて企業が注意すべきことを教えてください。」

「コロナとインフルエンザとの同時流行に備える必要があります。寒くなる

と発熱者が急増する可能性があります。インフルエンザや風邪による発熱なのか、コロナ感染なのかを見分けるのは難しい。仕事を休む人が

増えたり、治療や療養の期間が長くなったりすると、中小企業などでは休業せざるを得ないところも出てくるでしょう。そのリスクを見越して、発熱者が出た場合の対応と、感染予防策をしっかりと考えておくべきです」

「感染リスクを回避するために個人は何をすればいいですか。」

「感染症に対する集団免疫力を上げるといふ観点に立てば、インフルエンザワクチンの接種は必須です。例年打っていないという人も今年に限っては接種をすべきだと考えます。企業は助成金を出すなどの対応をしてほしいと思います」

「感染防止の最も有効な手段は、感染経路の遮断です。具体的な行動と

あなたに伝えたい

新型コロナ@熊本

産業医 加藤 貴彦さん



「通勤で公共交通機関を利用する際や食事時は、特に感染への注意が必要です」と語る熊本大学院の加藤貴彦教授。熊本市中央区

インフル同時流行懸念 ワクチン接種 助成も

◇かとう・たかひこ 1959年生まれ、岐阜県出身。熊本大学院生命科学研究部公衆衛生学講座教授。産業医科大学院卒。宮崎大医学部公衆衛生学講座教授などを経て、2007年から現職。10年から労働基準監督署労働衛生指導医。

「ほかに、感染症に関するリスクマネジメント（危機管理）の研修会を開いたり、（一定規模の事業所に設置が義務付けられている）安全委員会が情報共有したりする方法もあります。安全委員会は定期的に開くことが大事です。これは企業だけでなく、学校や福祉施設などでも言えることです」

「企業での集団感染を防ぐためのアドバイスはありますか。」

「コロナ担当者を置き、常に最新の感染情報やメッセージを発信していく必要があります。一般的に、どんなことでも無関心層は7割いると言われてます。そうした人は感染源ともなりやすく、繰り返しメッセージを出して意識付けをしていくしかありません」



「ほかに、感染症に関するリスクマネジメント（危機管理）の研修会を開いたり、（一定規模の事業所に設置が義務付けられている）安全委員会が情報共有したりする方法もあります。安全委員会は定期的に開くことが大事です。これは企業だけでなく、学校や福祉施設などでも言えることです」

（聞き手・平澤碧惟）
＝ 随時掲載